再質問の方式
1　一括質問一括答弁方式 ②　一問一答方式

小平市議会定例会一般質問通告書

質問件名　最期まで自分らしく生きるための終活支援について

質問要旨　（初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください）

高齢化が進み、高齢の家族のみの世帯や一人暮らしの世帯が増えています。身近に頼れる人がいない状況も少なくない中で、最期まで自分らしく安心して暮らすためには、さまざまな準備やサポートが必要です。市では 2025 年にエンディングノートを作成し、その書き方講座を開催したり、医療と介護の連携を推進するなど積極的に取組を進めています。今後、高齢者だけでなく現役世代も安心して暮らすためにさらに充実した終活支援が必要と考え、以下質問します。

1，終活支援の取組を推進することについて、市のご認識をお示しください。

2，市が行う終活支援の取組について、成果と課題をお示しください。また終活支援窓口の設置など検討していることがあればお示しください。

3，公民館などで行う終活に関する講座の直近3年間の開催状況と成果、参加者の声をご披歴ください。

4，市作成のエンディングノートについて、配布状況と今後の改善点について検討していることがあればお示しください。また、これまでの書き方講座の開催状況もお示しください。

5，パソコンやスマートフォンに入っている写真やネット銀行口座、サブスクリプション契約などのデジタル資産について、整理の必要性やその方法などを本人だけでなく家族も知っておくことが大切です。市によるデジタル資産等の整理に関する周知啓発について、ご認識を伺います。

6，終活支援には市と専門家や市民グループとの連携が必要です。市の連携の状況をお示しください。

7，成年後見制度や死後事務委任契約などの生前の備え、いわゆる予防法務を周知し、広く利用を進めることについて効果と課題をどのように捉えていますか。

8，医療と介護の連携は終活を支えるために必要です。連携について現状と課題をお示しください。

9，終活については、一人暮らしの高齢者だけでなく、家族を含めた現役世代が自分事として把握しておくことも必要です。市のご認識をお示しください。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

2026 年 11 月 12 日 小平市議会議長 殿　　小平市議会議員 氏名 さとう 悦子

受付番号【　　】

26	25	24	23

－（　　／　　）